

優秀賞 埼玉県 美原 将也 様 (40 代 男性)

「もし、もっと前に出会っていたら、生活保護にお世話になることは無かったかもしれないねえ。」

この言葉は、当時資産調査支援員として地方自治体福祉事務所でサラリーマンをしていた私が、障害年金の申請を支援した 63 歳のお婆さんからいただいた言葉です。

先天性の聴覚障害を持つこのお婆さんは、私と出会う前に、一度自分の力で障害年金の申請をしようと頑張っていました。しかし、理由があって高校生の時にご実家から離れて上京してきたお婆さんには、当時病院に通っていたことが分かる書類は全く残っていませんでした。また、40 年以上前の通院だったため、当時通院していた病院もカルテ等の情報は全く残っていませんでした。つまり、20 歳前の障害であるという証明書類を取得することが出来ずに、障害年金の申請を諦めていたのです。そのような時、私は偶然にも福祉事務所でお婆さんとお会いし、再度の障害年金申請についてお手伝いをさせていただくことになりました。お婆さんのお話を聞いていく中で、学生時にろう学校へ通っていたことがわかりました。そのろう学校に連絡を取ってみたところ、卒業生名簿にきちんとお婆さんの名前が記録されていることが判明し、ろう学校のほうで、お婆さんの卒業証明書を発行していただくことができました。このような形で 20 歳前障害の証拠書類を入手することができ、お婆さんの障害年金申請は無事に認定されることになったのです。

その後、お婆さんは障害年金の証書を持参し福祉事務所に来所され、嬉しそうに報告してくれました。その反面、少し口重そうに、「もしもっと前に出会っていたら・・・。」この言葉をいただいたのです。本当ならば 20 歳時に障害年金の受給が可能だったお婆さん。しかし、申請できずに過ごしてきたお婆さんは、63 歳にしてやっと障害年金を受給することができたのです。

お婆さんからいただいたこの言葉に、大きく 2 つの意味を感じました。一つ目は、年金申請のお手伝いをすることが、「必要としている人のために」少しでも貢献できると強く感じられたこと。何等かの形で「他人のために」役に立ちたいと漠然と思っていた自身に対して、明確に「他人のために」貢献できると感じた瞬間でした。二つ目は、生活を保障

する社会保険制度が申請主義であることから、その社会保障制度が正しく機能するために、人と制度の橋渡しをする役割の重要性や責任感を感じたことでした。

日本には、人が健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を保障する様々な社会保障制度があります。例えば、第一のセーフティネットと呼ばれる社会保険や労働保険。第二のセーフティネットとして役割を期待されている生活困窮者自立支援制度。そして、最後のセーフティネット、第三のセーフティネットと言われる生活保護制度など。私たちの生活を守るために、社会福祉や公衆衛生その他、様々な制度が運営されています。そのような中で、年金制度は、第一のセーフティネットである社会保険の一つとして運営されている社会保障制度です。社会保険料が高いとか、年金額が低いなどといった不満は、いつの世にもあると思います。しかし年金制度は、老齢・死亡・障害といった人生の大きな分岐点で、私たちの生活を保障してくれる大切な制度であり、その事実は今までも、これからもずっと変わりありません。

私はこのお婆さんからいただいた言葉をきっかけにして、現在、自身の事務所を開いて活動するようになりました。私たちの生活を守る大切な制度である年金制度が、必要とする人に対して正しく機能するように、年金申請で困っている方を専門的に支援するという形で「年金」と関わることを決意しました。そして今、生活保護受給者の方の年金申請を支援するという形で、主に地方自治体福祉事務所の支援を行っています。「For the others」、他人^{ひと}のための人であれ。私は「年金」を通じて、必要としている他人のために少しでも貢献できるように、お婆さんからいただいた言葉を胸に秘めながら、日々努力していきたいと思っています。